



広域下水道メンテナンス作業

大庄地区住民による安全パトロール



阪神橋梁下でキスが連チャンで釣れていた

2 堰魚道左岸寄りに砂州が成長している



第6 堰上流左岸寄り砂州の樹木が流下阻害している

砂漠状態だった甲武橋上下流の砂州が緑化した

広域下水道を整備している人に「ご安全に」と声を掛け、地域の有志が集まって安全パトロールしている方に「ご苦労様」と声を掛ける。潮止め堰上流側はテナガエビやハゼの釣り場として知られているが、潮止め堰転倒の影響でもあったもかキスが釣れていた。チョットした環境の変化を敏感に感じ取っているようで、探鳥に来た人も毎年新幹線橋梁に来るタカも今年はまだ撮れないという。我々の子供の頃はセミち言うくとアブラゼミだったが最近アブラゼミは滅多に見られなくなった。我々が気付かないうちに武庫川流域の環境も大きく変わった様な気がしてならない。

日本各地で洪水が頻発している中でも武庫川流域は何故か3年くらい目立った出水が無く下流部の砂州が成長し、砂漠状態だった砂州の緑化が進みヤナギや梅檀の木が大きく育ち、樹木の周囲にヨシが繁茂し流れを阻害するようになった。大きくなると丈夫になって流れに耐えると思っていたが、河床や砂州で倒れているのは大きな樹木ばかり。

九州豪雨では流木が橋脚に引っ掛かり倒壊する事例もあり、洪水対策の一つとして樹木管理と比較的早く堆積する砂州浚渫の必要性を感じる。これまで見てきた範囲では土砂堆積の早い武庫川では浚渫は魚類大きな影響を及ぼさない。